

第4グループ【地域コミュニティ分野】

みなとタウンフォーラム・第4グループ 地域コミュニティ分野

令和2(2020)年3月23日

みなとタウンフォーラム第4グループ [メンバー]

及川 廣子 菅家 厚子 平尾 恭一
平澤 富吉 藤澤 英子

※メンバーは五十音順



提言にあたって

第4グループ【地域コミュニティ分野】

私たち第4グループは、地域コミュニティ分野について、メンバーの興味・関心に基づき、「地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり」、「地域コミュニティの発展支援」の2つのテーマに分け、全7回にわたり、グループ会議で議論を重ねてきました。

港区は、都心区としてハード・ソフト両面から先駆的なまちづくりが行われ、多様な人材や情報、仕組み、ライフスタイルが集積し、開発事業等でまちの姿が刻々と変わり続けています。こうした中、区民の9割以上が集合住宅に暮らしており、区内居住年数が短い住民や転出入数が多く、外国人比率が高い、昼夜間人口の差が大きいといった特徴があります。

一方で、それぞれの地域には、町会・自治会を中心とした地域住民によるコミュニティや文化、お祭りなどの風習が古くから受け継がれています。港区は、働く場所であり、暮らす場所といった特性が混在したまちでもあります。そうした中で、プライバシーやセキュリティを重視する近年の社会動向により、港区民としての地域への愛着やつながりが希薄になりつつあることが懸念されます。

さらに、町会・自治会や区民団体、NPO等によるさまざまなコミュニティ活動が活発に行われている一方、活動や情報が溢れ

すぎていて区民に的確に届いていない、認知されていないという課題が見受けられます。

こうした現状・課題を踏まえ、「地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり」については、地域コミュニティの役割の再確認や、町会・自治会とマンション等の住民との連携の重要性、時代にあわせた緩いつながりのコミュニティを尊重するとともに、コミュニティを支え、育む専門的な人材の必要性について議論しました。

また、「地域コミュニティの発展支援」については、コミュニティを持続的に運用するための活動場所の柔軟な確保や、コミュニティに関する情報を蓄積・発信するあり方や情報の活用方法、人や情報の居場所となる場所の必要性について議論しました。

こうした議論を積み重ね、区民の誰もが孤独や不安を感じることなく、コミュニティの中にいつでも落ち着ける居場所を持つことができるまちになってほしいという思いを込めて、第4グループの提言として取りまとめました。

この提言が、令和3（2021）年度からの次期港区基本計画に反映され、区民が港区への愛着と誇りを持ち、多様な区民が多様なコミュニティの中でいきいきと活動できるまちになることを期待します。

提言の体系

テーマ	提言内容（具体的な事業）
地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり	（仮称）地域コーディネーターの設置と育成
	マンションと地域連携の充実
地域コミュニティの発展支援	「区民協働スペース」の利活用
	コミュニティ支援サイトの充実
	（仮称）マルチスポットの設置

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

テーマ① 地域コミュニティのあり方と 継続的な体制づくり

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

- 多様な区民が、多様なコミュニティとつながりを持ちやすく、いつでも落ち着ける、ほっとする居場所のあるまち

実現に向けた課題

- プライバシーを尊重し、地域とのつながりや愛着が希薄
- コミュニティ活動の立ち上げや、困った時に頼れる相談先の不足
- マンション内のコミュニティ、管理体制が不十分
- マンション居住者と地域の町会・自治会との連携の不足

取組の方向性

- 町会・自治会は、地域コミュニティのひとつとして、生活の基盤を支える役割を担う（地域の環境美化、防犯・防災、災害復旧、交流など）。
- 区民の生活や興味が多様化しているため、自由なコミュニティの活動や新たな緩いつながりのコミュニティも尊重する。
- 外国人など多様な区民の受け皿となるよう、様々な地域コミュニティの活動を支援する。

具体的な事業

(仮称) 地域コーディネーターの設置と育成

- 区役所、総合支所等に、専門の相談窓口（場所・人材）を設置し、地域コミュニティ（町会・自治会やコミュニティ団体の運営・立ち上げ支援、相談対応、情報提供など）に関する支援を行う。
- 地域コミュニティに関する専門的な知識を持つ職員や区民を育成し、地域コミュニティの担い手として活動する。

マンションと地域連携の充実

- マンション単位での自治会の立ち上げや継続性のある運営、マンション同士のノウハウの共有、マンションと地域の町会・自治会との連携の支援を通して、地域との連携、災害時の体制づくりに関する相談などに対応する仕組みを整える。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- 地域コーディネーターの担い手を目指したコミュニティ活動への参画
- コミュニティ同士の横のつながりを持ち、相互に高めあう。
- マンション住民や管理組合が主体的に地域と連携を図り、継続的な管理運営を行う体制を整える。

テーマ② 地域コミュニティの発展支援

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

- 多様な区民が、多様なコミュニティとつながりを持ちやすく、いつでも落ち着ける、ほっとする居場所のあるまち

実現に向けた課題

- 活動の場となる施設は充実しているが、柔軟な活用ができていない。
- 情報があふれており、必要な情報が的確に伝わっていない、埋もれている。
- 様々なコミュニティ活動をする人、興味を持つ人はいるが、活動が認知されておらず、うまく繋がっていない。

取組の方向性

- コミュニティ団体が利用できる場所の柔軟な利活用や、技術の発展が進むインターネット上のサイト等も活用した活動の場の充実を図る。
- 地域コミュニティに関する情報を一元化し、受け取り手が検索しやすく、必要性や興味に応じて取捨選択しやすくする。
- 区民の目に留まるコミュニティ活動の実施、展開
- 多様な区民が、多様なコミュニティと接点を持てるきっかけづくり

具体的な事業

「区民協働スペース」の利活用

- コミュニティ団体の利用に柔軟に対応するなどして、区民協働スペースを有効に活用する仕組みを整える。

コミュニティ支援サイトの充実

- 地域コミュニティに関する情報を収集、蓄積するメディアを立ち上げ、地域の情報やイベント紹介、人員募集、身近な名所の写真等を、区民が自由に投稿、コメント、活用し、情報交換できる仕組みを整える。

(仮称) マルチスポットの設置

- コミュニティの情報提供や運用支援、地域の特色を活かした取組を行う機能・場を充実させる。
- マルチスポットで活躍する（仮称）地域コーディネーターは、区民主体の人材を育成する。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- コミュニティ団体の活動の周知、目に留まる場所でのイベントの実施
- 優先度や対象者を意識し、整理された情報の提供
- 区内の事業者も区民の一員として、地域コミュニティへの参加や支援サイトでの情報発信に主体的に関わる。

開催経過

第4グループ【地域コミュニティ分野】

回数	開催日時	内容
第1回	令和元年9月27日(金) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・事務局紹介・グループ会議の進め方について・分野における現状と課題について・リーダー、サブリーダーの選出・検討テーマの選定
第2回	令和元年10月8日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第1回グループ会議の振り返り・検討テーマ1「地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり」の将来像、現状と課題、方向性について
第3回	令和元年10月23日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第2回グループ会議の振り返り・検討テーマ1「地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり」の事業、参画と協働の推進について
第4回	令和元年11月5日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第3回グループ会議の振り返り・検討テーマ2「地域コミュニティの発展支援」の将来像、現状と課題、方向性について
第5回	令和元年11月19日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第4回グループ会議の振り返り・検討テーマ2「地域コミュニティの発展支援」の事業、参画と協働の推進について
第6回	令和元年12月11日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・提言書（たたき台）の確認
第7回	令和元年1月14日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・提言書（案）の確認・提言式について

みなとタウンフォーラム
第4グループ 提言書

地域コミュニティ

1

検討経緯

全体会

- ・メンバー顔合わせ
- ・グループ会議の進め方確認

第1回
グループ会議

- ・リーダー・サブリーダー選出
- ・検討テーマ設定

第2, 3回
グループ会議

- ・テーマ1に関する検討

第4, 5回
グループ会議

- ・テーマ2に関する検討

第6, 7回
グループ会議

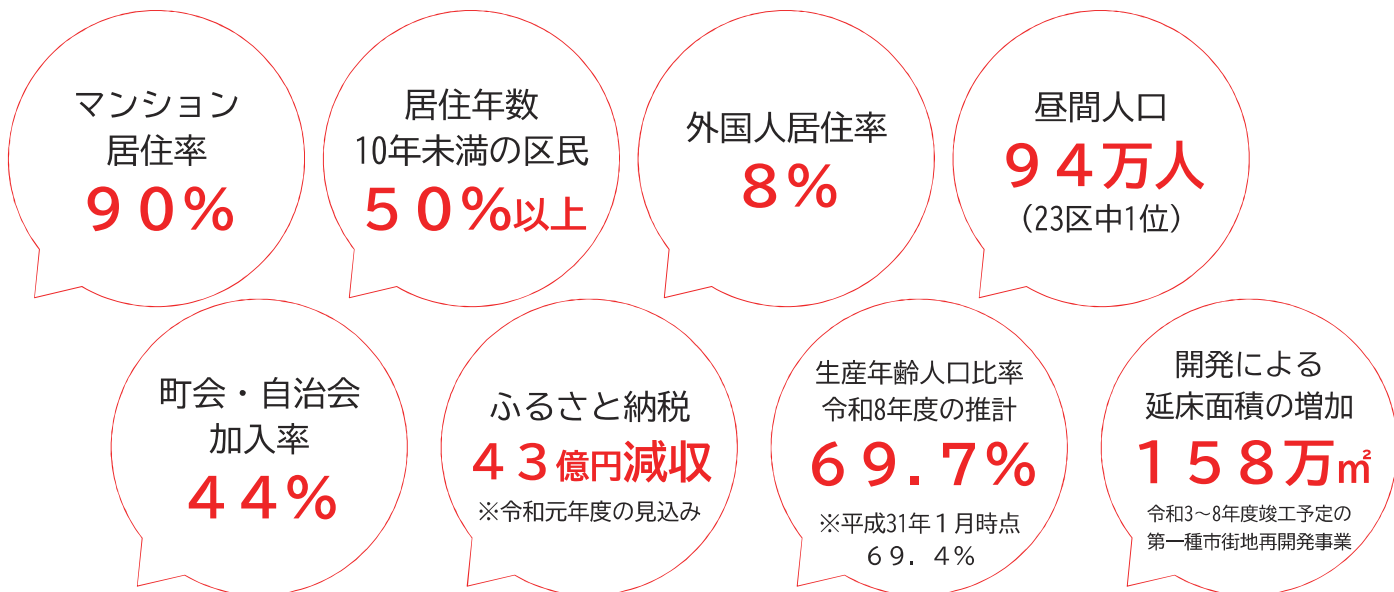
- ・提言書の確認



提言式

2

地域コミュニティの現状



課題認識

コミュニティの多様化、地域への愛着の希薄化

3

将来像と検討テーマ

多様な区民が、多様なコミュニティとつながりを持ちやすく、
いつでも落ち着ける、ほっとする居場所のあるまち

テーマ① 地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり

ステップ
アップ

町会
自治会

マンションと
地域の連携

立ち上げ
支援

相談対応

テーマ②

地域コミュニティの発展支援

活動の場

情報発信

きっかけ
づくり

4

提言内容

テーマ① 地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり

方向性

- 町会・自治会は、生活の基盤を支える役割（環境美化、防犯・防災など）
- 自由なコミュニティ活動、緩いつながりのコミュニティも尊重
- 様々な地域コミュニティの活動を支援

事業

- （仮称）地域コーディネーターの設置と育成
- マンションと地域連携の充実

参画と協働

- 担い手を目指したコミュニティ活動への参画
- コミュニティ同士の横のつながり
- マンションと地域との連携



5

提言内容

テーマ② 地域コミュニティの発展支援

方向性

- コミュニティ活動の場の充実
- 受け取り手が検索、取捨選択しやすい情報の整理
- 区民の目に留まるコミュニティ活動の実施、展開
- コミュニティと接点を持てるきっかけづくり

事業

- 区民協働スペースの利活用
- コミュニティ支援サイトの充実
- （仮称）マルチスポットの設置

参画と協働

- コミュニティ活動の周知
- 整理された情報の提供
- 事業者も地域コミュニティに主体的に参加



6

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年9月27日（金）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 912会議室

メンバー：4名（3名欠席）

事務局：対応部門関係課長3名（地域振興課長、芝地区総合支所協働推進課長、高輪地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 リーダー、サブリーダーの選出
- 5 検討テーマの選定
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
4	グループ会議の進め方について
5	検討希望テーマ集計結果
6	港区の産業・地域振興

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

事務局が、第1回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 事務局紹介

事務局より、地域コミュニティグループ（第4グループ）に関わる関係課長等の事務局紹介を行った。

2 グループ会議の進め方について

事務局より、資料2に基づきグループ会議の開催スケジュールの確認を行った。第6回グループ会議は12月11日（水）港区役所9階913会議室、第7回グループ会議は12月19日（木）港区役所9階912会議室で開催とする。

事務局より、資料3に基づき提言の構成について説明を行った。

事務局より、資料4に基づきグループ会議の進め方について説明を行った。進め方については、第2回グループ会議の状況に応じて決定とする。

3 各分野の現状と課題について

事務局より、港区基本計画に基づき、第4グループに関係する港区基本計画の第3部「にぎわうまち」の政策（11）、（12）について、政策ごとに「現状と課題」、「主な取り組み」の説明を行った。

4 リーダー・サブリーダーの選出

グループ会議運営にあたってのグループリーダーが選出された。リーダーより、就任挨拶が行われた。

サブリーダーは次回選出する。

5 検討テーマの選定

グループ会議での検討テーマについて意見を出し合い、議論が行われた。

(主な意見等)

参加者：検討テーマ案の5項目は、少し分けすぎているように感じる。「1. 団体の活動支援」「3. 地域活動情報の発信」が主軸で、残りの3つそれぞれの項目の一部分として検討できるのではないか。

事務局：「5. 地域交流・連携の促進」は他の4つの項目の議論に少しずつ含んでもよいのではないか。

参加者：以前町会に所属していたが、理事長の担い手がないなど、地域コミュニティの大元になる町会・自治会の存在が危ういと感じている。特にマンションでは、投資物件で居住者が少なかったり、老朽化していたりと、管理組合が機能していないマンションも多く、今後も増える可能性が高い。マンションの改修計画や防災計画なども、先進的な取り組

- みをしているところもあるが、そこから専門家がないマンションに共有、展開されていない。災害時にも、マンション単体と地域全体では考えていることが異なっている。これから5年後、地域コミュニティにとって大事なことは何か考えた上で、課題や方向性を考えた方がよいのではないか。様々な観点を含めて将来を考えるのがよいと思う。
- 事務局：港区は約9割がマンション、集合住宅住まいで、マンション単位で町会を組織している場合もある。
- 参加者：マンション単体の組織も必要だが、町会との連携をどうするかも重要。
- 参加者：マンションは、意外と世代交代が進んでいると感じる。今のような問題があり、それに対する解決策を考えることが重要だと思う。多様化が進んでおり、戸建とマンション、新しいものと古いもの、国内と海外など、色々な層ができ、どの範囲をコミュニティに含めて考えるか難しい。
- 参加者：港区は5支所に分かれているが、それぞれの課題によって区全体で考えるべきことか、支所ごとに対応するべきことかも異なるのではないか。
- 事務局：多様化する時代の、将来の地域コミュニティのあり方や、マンションの管理組合など、コミュニティ活動を行う組織になりきれていない団体の立ち上げや体制づくりが大きなテーマのひとつになるのではないか。
- 参加者：高層マンションなどは、それだけでひとつのコミュニティになる。独自に考えてもらうだけでなく、区としての考え方を共有し、取り入れてもらうことも必要。
- 参加者：興味深いテーマになりそうで楽しみにしている。
- 参加者：既に区でも問題として捉えていることと通じるのではないか。
- 事務局：町会・自治会などはいわゆる任意団体のため、区から要望を出すことは難しい。しかし、特に災害時には連携体制を取ってもらう必要があるため、組織立っていないところがあることは危機感を持っている。
- 参加者：マンションであれば、リフォーム時の補助金の相談など、必ず区と接点を持つ機会がある。その時の相談窓口や、防災に関する相談、老朽化した投資物件の改修など、モデルイメージのようなものがあって対応できるとよい。老朽化して建て替える時期が来たら、誰かがサポートしてあげなければ、ただ古くなり管理不能になってしまう。街中のあちこちにそのような物件があると不安になる。
- 参加者：港区のマンションには、築年数の古いものがたくさんある。
- 参加者：町会の役員は任期が長く、マンションは任期が短い。委員会を組織し、設備改修など専門的な体制をつくる工夫をして上手く機能した例がある。
- 事務局：1つ目のテーマをコミュニティ団体の体制づくり、2つ目のテーマとして情報発信など、団体のステップアップや底上げに関することにはどうか。
- 参加者：色々な情報誌を出していることは知っているが、情報発信のあり方は難しいテーマだと感じる。
- 参加者：情報発信について、花の写真を撮る活動をしているが、場所がわかるようにすると評判が高い。港区で色々な場所があるという情報を貯めて活用する場所があると面白いと思う。SNSも普及しているが、情報量が多くて読むのが大変である。言葉がいらぬ写真など、単純化できるとよいと感じている。芝地区は大きな公園が多いが、高輪地区は自宅の庭を綺麗にする活動が盛ん。写真を撮っていると地区で特徴があることがよくわ

かる。区を紹介するために本当に必要な情報が何かを整理して、それを貯める方法、発信する方法を考えるのがよいのではないか。

事務局：テーマを検討する順番は、最初にコミュニティのあり方と体制づくりについて、次に団体の発展についてとして、よいか。

リーダー：次回のグループ会議ではテーマ1を中心に検討するが、おそらく色々な課題やご意見が出るため、そこから再配分してもよいのではないか。これだけ多様化しており、これから外国人も増える時代に、いつまでも町内会を中心に考えるのは無理があると思う。

事務局：仮テーマとして「地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり」、「地域コミュニティの発展支援」としてはどうか。

参加者：今回は、まずはみなさんが思っていること、不自由に感じていること、不安に思っていることを自由に話していただくとよい。

事務局：次回の資料として、前回のタウンフォーラムの提言内容と取りまとめた状況、事情で取り上げられなかった事項があれば整理して示すこととする。また、区が行っているコミュニティ活動への支援策について説明する。

参加者：マンションのコミュニティに対する行政の支援について、状況を教えてもらえるとよい。

リーダー：基本計画はグループに関連する部分のみ抜き出して用意していただくと見やすいのではないか。グループ会議の最初の数回は、あまり型にはめず、みなさんが思っていることを自由に発言していただきたいと思っている。

6 その他

次回のグループ会議は10月8日（火）港区役所5階511会議室で開催する。

（閉会）

リーダーが第1回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年10月8日（火）18時30分～20時30分

会場：港区役所5階 511会議室

メンバー：4名（3名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（地域振興課長、麻布地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第1回グループ会議のふりかえり
- 2 サブリーダーの選出
- 3 前回のみなとタウンフォーラムの提言反映状況について
- 4 検討テーマ1に関する現状と課題について
- 5 意見交換
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第1回グループ会議のふりかえり
2	平成28・29年度みなとタウンフォーラムにおける提言反映状況について
3	検討テーマ1「地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり」に関する現状と課題
4	港区の産業・地域振興 令和元年度（2019年度）版事業概要【抜粋】
5	港区基本計画・港区実施計画【抜粋】
参考資料1	第1回グループ会議 議事録

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第2回グループ会議の開会が宣言された。

1 第1回グループ会議のふりかえり

事務局より、資料1に基づき第1回グループ会議のふりかえりを行った。

2 サブリーダーの選出

グループ会議運営にあたってのサブリーダーが選出された。サブリーダーより、就任挨拶が行われた。

3 前回のみなとタウンフォーラムの提言反映状況について

事務局より、資料2に基づき平成28・29年度のみなとタウンフォーラムの提言反映状況の説明を行った。

4 検討テーマ1に関する現状と課題について

事務局より、資料3に基づき検討テーマ1に関する現状と課題の説明を行った。

5 意見交換

検討テーマ1「地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり」に関する課題、将来像、方向性について意見を出し合い、議論が行われた。

(主な意見等)

参加者：自分自身、東京都民という意識はあるが、港区民という意識が高いとは感じない。退職後に時間ができて地域と関わりを持つようになってきたが、現役時代にはほとんど参加していなかった。特にマンションの方は、町内会等との関わりは薄いのではないかと。地域コミュニティを考える上で、マンション対策の提言は必要だと考えている。

事務局：港区の特徴としてマンション、転出入が多いが、子どもがいるファミリー層では、学校やPTAを介して地域とのつながりが生まれるきっかけになっている。

参加者：コミュニティは自然に出来上がるものとはいえ、働く世代には関わる機会や時間が少ない。一方、港区に住んでいる方でも、休日は区外に出かけてしまう。子どもがいる世帯は、学校や子どもの友達など、ひとつのコミュニティができるが、それ以外の方は港区に暮らしているという意識はあまり高くないと思う。区民としての意識を持ってもらえるとよい。コミュニティに引き込むための魅力をどのようにアピールできるかは考える必要がある。個人的には、虎ノ門・麻布台プロジェクトなどは地域の魅力になると期待している。また、区としていろいろな取組の努力をしているが、手広すぎるという印象がある。

事務局：(麻布地区のコミュニティアプリ「PIAZZA」の紹介)

町会・自治会の活性化も目的にしているが、匿名性の高い生活を好む現代の方にとっては、自分の興味のあるコミュニティにピンポイントで参加し、緩いつながりを持つスタ

イルが今の時代に有効なツールではないかと思っている。

参加者：マンションでは、プライバシーを尊重し、つながりや交流が少ない。無理にマンション内のつながりを作るよりも、このような自分の好みのコミュニティに参加していく方が時代に合っているのではないか。

参加者：ミナヨクでは、子どものおつかいを親と一緒に見守る取組をしている。秋まつりでコマ回しなどの昔遊びも開催しており、世代交流のきっかけになっていると思う。サロン麻布でも、定期的に講習会などを開催している。

参加者：区民協働スペースは区内にいくつあるのか。コミュニティ活動には場所も重要だと思う。マルシェなどの取組はよいと思う。また、買い物難民の課題解決や、コミュニティづくりにもつながっている。

事務局：協働スペースは区全体で14箇所あり、稼働率は4割ほどである。

参加者：PIAZZAが協定を結んだ町会自治会連合会とはどのようなものか。

事務局：麻布管内では現在42の町会があるが、昭和40年代に連合会として組織されている。他地区も募って港区全域の連合町会を組織する案もあったようだが、うまくまとまらなかったと聞いている。

参加者：町会が、町丁目とは別にとても細かく分かれていると感じている。大きい町会では婦人部、防災部など細かく組織している。一方、体制が整わずに継続できない町会もあると聞いたので、何か対策を考えなければならないと感じている。例えば、神社の祭りで神輿を出すのにグループを組んでいるが、人手が足りずに祭りの時だけ人を集めたり、他町会に協力を頼んだりしている。

事務局：古いところでは、江戸時代の5人組制度に端を発して組織された町会もある。長い時間をかけて同質的な生活を共有してきた集まりと、新しく地域に参加する方では性質が異なる。

参加者：お祭りでは、意外と新旧の住人の垣根なく楽しんでいるように感じた。

参加者：東海大でもチームを作って、色々なお祭りの手伝いをしている。いろいろな活動をしている人がいるため、うまく融合できないか。

参加者：神輿の担ぎ手が足りなければ、今までは学校に協力依頼に行くくらいしかなかったが、PIAZZAのような場所で募集ができるとよい。区が運営に関わっている安心感もある。

事務局：Facebook、LINEなど閉じられた交流が盛んだが、PIAZZAは、少し広い範囲で、好きなテーマに参加できる場所として新しい役割を担っていると思う。

参加者：コミュニティの基盤として、町会・自治会だけに頼る時代ではないと感じる。

参加者：行事やイベントはともかく、災害時、防災という観点では、町会・自治会組織は変わらず重要だと思う。

事務局：大規模な集合住宅では、単体で町会・自治会を組織している。

参加者：マンション全体が町会に入っても、実際には入居者はほとんど参加しておらず、役員だけが町会に関わっているということもある。防災や災害復旧を考えるなら、マンション同士の横のつながりや、町会との連携体制を整える必要がある。

事務局：歴史的に、地域の防火防災・防犯などの役割を担っていたのが町会・自治会である。祭りや慶弔行事などを通じて同質的な共同生活を培ってきた町会・自治会の方が、新しい

緩いつながりのグループよりは、災害時に一体的な行動をとりやすいとも考えられる。防災、環境美化等の地域活動の面では、引き続き町会・自治会には力を維持してほしいという希望はある。

参加者：町会だけが頑張っている、マンションでも防災体制を整えておかなければ、いざという時に困る。災害時の体制づくりや、行政がモデルを示して導いてあげるなどのサポートは必要。

事務局：中学校区域ごとに防災協議会を組織しており、町会や学校関係者が関わっている。そこにマンションの方にも参加してもらえよう働きかけが必要だと考えている。

参加者：近年ワンルームマンションが増えている。災害時に孤立してしまうのではないかと不安に感じている。

参加者：町会に参加しており、防災などの情報提供をしてもらえが、同じマンションの住民でも町会に参加していない方には情報が届かないこともあると聞いた。

参加者：例えばマンションで防災委員会のようなものを組織して、そこが町会などと連携していくのはどうか。組織ごとの議論が多いが、目的ごとに決めると具体的に動きやすいのではないか。

事務局：区で防災アドバイザー派遣をしており、防災マニュアルづくりの支援などを行っているが、あまり知られていない状況もある。

参加者：災害時の体制図の作成を各マンションに依頼する際に、防災アドバイザー派遣をアナウンスしてはどうか。行政内でも担当課で分けるのではなく、目的を見据えて横の連携を図ったほうがよい。

参加者：PIAZZAも地域の方だけではなく、広く区民に知ってもらえるとよい。

事務局：他にもプッシュ型で、区を取組を発信するツールもある。

参加者：区を取組で良いものがたくさんあるが、知られていない、広がらないことが多いと感じる。

参加者：情報提供は重要だが、情報量が多すぎると感じる。

例えば、区内には公園がたくさんあるが、子どもが遊ぶ場所なのか、大人が休憩する場所なのか、イベントする場所なのかわからない。公園の棲み分けをした方がよいと思う。区民のための施設もたくさんあるが、使い方がわからない、入りにくい雰囲気を感じることもある。

また、港区に長く住んでいる高齢者が、住み続けられなくなっていると感じる。

参加者：マンション住民の区民意識の醸成や町会との関わりあいも大事だが、それぞれのコミュニティや個人の事情もある。コミュニティ活動をどう良くしていくか、町会・自治会とマンションや新しい住民をどう融合していくかが、このグループの提言の主題だと思う。防災などは、命に係わる問題でもあるため重要な切り口である。

また、先進自治体として、国際化に対応したコミュニティのあり方を考えることは重要である。

参加者：赤坂の特別養護老人ホームで、入所者のためのカフェをやっている。商店街との兼ね合いもあり、参加できない町会もあると聞いた。家に閉じこもらず、あそこに行けば楽しい、と思える場所を目指して活動している。

参加者：コミュニティは強制するものではなく、魅力があるか、参加する必要性があるか、心地

よい居場所かどうかで参加するもの。これだけ価値観が多様化している中、コミュニティ活動のあり方も多様になっている。

参加者：カフェといっても、必ず講演会などが必要ではなく、何も目的がなくてもただコーヒーを飲みに来る、ただ集まれる場所が望まれている。そうしたニーズに、行政が無料で場所を提供してあげることも重要。

参加者：港区はハード面の施設は充実しているため、今ある場所をどれだけ活用するかが重要。

参加者：施設や場所は整っているが、条件が多いと感じる。ある程度の制約は必要だが、目的がなくなるとなく集まりたい人たちや、外国人に対してどのように場所を提供するかは考える必要がある。ツールも大事だが、そこに行けば誰かいる、居心地が良いと思える場所があることは大事。

参加者：区民協働スペースなど、空いていても使えないところがある。空いている時は有料で開放できないか。

事務局：区民協働スペースは、基本的に町会・自治会などの協働のための活動に提供しており、それ以外の団体は有料で区民センターなどを使っただけでいいことになっている。柔軟な対応はできていないのが現状である。

参加者：自由に使われるのは良くないと思うが、例えば時間や場所を決めて団体を縛らず開放するなど、柔軟に対応できないか。一方で、全ての施設を誰でも使えるようにすると、サークル活動などが集中してできなくなるため、場所の棲み分けも必要。

参加者：せっかく場所があるのに、上手く運営できていないことは、コミュニティが盛んになるかならないかの重要なポイントだと思う。例えば、全体の時間の3分の1は団体を縛らずに開放するなど、使い方を考えられないか。区の税金で運営する施設のため、区民全員に開放するのが大前提ではないか。

事務局：過去に支所の区民参画組織でも、集まる場や打ち合わせを出来る場が必要というご意見をいただいていた。区民協働スペースを展開していく過程では、平成26年に区民協働ガイドラインを策定し、「協働」とは何かを定義した。その協働の理念に基づき、地域の知見を持っている方が協力して地域の課題の解決に当たる活動の場として、区民協働スペースが提供されている。

参加者：協働の理念は理解できるが、実際の運営状況などを評価し、見直しや改善をすることも必要ではないか。タウンフォーラムからの意見として、コミュニティ活動を活発にするためには、区民協働スペースも活用できるよう検討してほしい。

事務局：区民協働スペースは、町会・自治会、商店会、福祉団体などはいつでも利用できるよう、申し込みや手続きを簡単にしている。

参加者：コミュニティ活動には、立ち上げや、活動を広げるための方策も重要ではないか。自分達だけでメンバー集めや会場の手配をするとなると、大変だと思う。多種多様なニーズに対応するには、多種多様な支援が必要で、行政のサポートが重要ではないか。お金をかける必要はないが、専門の担当者、窓口があり、いろいろな相談に乗ってもらえるととても助かると思う。

事務局：区として、中間支援が弱いという課題は認識している。

参加者：CCクラブでは、管理課が支援をしてくれてとても助かった。相談しやすい状況で、楽な気持ちで始められた。

参加者：白金高輪で外国人に日本語を教える活動をしていた。区外に引っ越した方も続けて参加してくれている。東日本大震災の時も、不安を感じている外国人の助けになっていたと思う。

参加者：区民意識の醸成について、区ではどのように考えているか。

事務局：マンションの建設計画の段階から、町会への加入案内をしている。大規模マンションであれば、単独の町会組織を作ってもらえる呼びかけをしているが、任意の自治的組織であるため、それ以上は踏み込めていない。

また、区への愛着やシビックプライドの醸成を促すための取組として、MINATO シティハーフマラソン、区民まつりなど、地域に根付いた祭りやイベント等を行っている。

参加者：港区に長く住んでいるが、港区民としての意識はあまりない。港区をよくしようと思っ
てもらうためには、区民意識を持ってもらうことが必要だと思う。

参加者：港区は転出入が多く、地域への愛着が希薄な方も多いと思うが、プライバシーとの兼ね
合いもあり難しい。しかし、よい街であることは間違いがないため、もっとアピールして
いけるとよい。このよい街をもっとよくしよう、住みやすい街にしようという意識を持
ってもらわなければ、ただ寝に帰るだけの場所になってしまう。

参加者：情報が多すぎるという点について、本当に必要な情報なのか、情報の優先度が整理され
ていないと感じる。港区をどんな街にしたいかビジョンを決め、それに直結するものは
優先度を高くして発信すべき。

リーダー：本日はたくさんのご意見をいただいたため、まとめを次回の事前に配布してもらうこと
はできないか。まとめを見ながら、次回のグループ会議までに具体的な取組についてご
意見を整理してきていただきたい。

事務局：まとめは事前に送付できるよう用意する。次回のグループ会議では、テーマ1の将来像
を実現するための取組、具体的な事業について議論する。

6 その他

次回のグループ会議は10月23日（水）18時30分から、港区役所9階911会議室で開催
する。

(閉会)

リーダーが第2回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年10月23日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 911会議室

メンバー：4名（2名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（地域振興課長、芝浦港南地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第2回グループ会議のふりかえり
- 2 意見交換（検討テーマ1に関する取組の方向性、具体的な事業、参加と協働の推進について）
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第2回グループ会議のふりかえり
2	グループ会議の検討スケジュール（修正版）
参考資料1	第2回グループ会議 議事録

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第3回グループ会議の開会が宣言された。

1 第2回グループ会議のふりかえり

事務局より、資料1に基づき第2回グループ会議のふりかえりを行った。

2 意見交換

検討テーマ1「地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり」に関する取組の方向性、具体的な事業、参加と協働について意見を出し合い、議論が行われた。

(主な意見等)

参加者：麻布地区や芝地区の方が、青山・赤坂地区よりコミュニティ活動が盛んに感じる。

参加者：麻布地区や芝地区は戸建住宅がまだ多く、古い宅地もあるため、「街」という雰囲気が残っているように感じる。港区は9割以上が集合住宅に住んでいるということだが、マンションが多い地域のコミュニティのあり方は難しいと感じる。

参加者：麻布十番などでは昔ながらの喫茶店があり、新しいつながりやコミュニティが生まれるきっかけになっていると思う。

参加者：青山・赤坂地区は町会・自治会の組織体制がしっかりしていると感じる。再開発が多い地区でもあるため、自分たちの生活環境を守るための危機感が強いかもしれない。一方で、自由な活動を立ち上げにくいという感じもする。前回のグループ会議で紹介のあった麻布地区のSNSアプリのような取組は、昔からの町会・自治会の活動には参加していない人が集まる場として有効だと思う。麻布十番などは、若い人や外国人も町会・自治会の中心的立場で活動しており、意外と高齢化が進んでいるという印象はない。

参加者：麻布十番商店街は東京都内でも随一の商店街だと思う。麻布十番商店街は様々な取組をして活発に活動している。店の跡継ぎも町会・自治会活動に参加しているため、若い世代も多い。

麻布十番納涼まつりなどのお祭りの際には、商店街同士で張り合って相乗効果が生まれていると思う。そうした場にマンションの住民も参加してうまくやっているところもあれば、参加したがるらないマンションもあり、強制できるものではないが、うまく支援する方法はないかと思う。ただし、お祭りはあくまでも一過性のイベントに過ぎない。

また、港区の特色、「港区らしさ」を出せないかと思う。東京タワーや社寺など、新しいものも古いものもあり、お台場もひとつの街として特色があると思う。

事務局：来街者や外国人にとっても、「港区」という単位よりは「六本木」「お台場」といった地域の名称で認知されているし、わかりやすい。区では、昨年度「シティプロモーションシンボルマーク」を作成し、対外的に港区をPRしている。

参加者：最近では、町会・自治会という単位ではなく、町会連合会や、他の個別の団体、それらが横のつながりを持つなど、新しい集まりが生まれていると思う。港区民という意識よりも、高輪、六本木など、地域単位の地元意識はあり、行事をきっかけに集まりが生まれるのではないかと思う。

参加者：町会や町丁目という単位にとらわれず、大きさまざまな単位のつながりができることはよいと思う。

参加者：昔から住んでいる方が多いところ、新しい方が多いところでは、画一的ではなくそれぞれに合ったやり方に変えていけばよいと思う。

参加者：既にある町会・自治会やコミュニティ活動団体などはそのまま頑張ってもらって、その集合体として区があるというイメージでよいと思う。住んでいる人などで自由に団体を立ち上げて、適所で区から支援ができれば、港区全体として頑張っているという構図になると思う。例えばMINATOシティハーフマラソンは、各地域の方に聞くと、「支援はするが、自分の地域のイベントではない」という認識だった。区のコミュニティをどのように盛り立てていくかもひとつのテーマになると思う。

8年後の将来像を考えると、「情報」が大きな鍵になると思う。地域の情報を地域で使えない、企業が独占してしまうということにならないよう、区が先導して整理しておいたほうがよい。webの情報発信などを区でもいろいろやっているが、情報が多すぎて探せないという状況になっている。区内の花や行事の写真を撮っているが、道に並べてみると地域性がわかる。他にも同じように活動したり、情報を集めたりしている人はたくさんいると思う。個別の情報を集めると、立派なデータベースになると思う。受け皿になるホームページのシステムや、コーディネーターを行政が用意して、「こういう情報を集めている」「困ったらここを見るとよい」など、交通整理の役割をしてくれると、やりやすいと思う。

参加者：ハード整備だけでなく、現代ではウェブを通じた交流や情報交換もコミュニティのひとつの視点である。麻布地区のSNSアプリ「PIAZZA」のような取組を一般化していくこともひとつの手だと思う。地域コミュニティとは、生活していく中のいろいろな接点だと思う。子育て世帯にとっては学校など。接点を核にして広げていけば、早く浸透するのではないか。

事務局：麻布地区のSNSアプリ「PIAZZA」は、今後は要望を踏まえて全区展開などを考えたり、強化したりと改善する予定である。

参加者：若い世代は、学校や仕事で忙しく、住んでいる街のことに興味を持つ時間がないと思う。さらに、区役所や支所は堅苦しく、行くハードルが高い。ホームページも見づらい。仕事で区民センターを借りてイベントができないか問合せた際、団体登録などの手続きが億劫だと感じた。

参加者：高輪地区では、「みなとっぷ」という地域情報誌の発行、「みどりを育むプロジェクト」などを行っており、明治学院大学、東海大学の学生も関わっている。そうした場で友達や相談しやすい人ができると、より参加しやすくなると思う。最初のきっかけづくりが重要である。参加するにしても、好きな時に行ったり、休んだりできる状況づくりも重要だと思う。

参加者：区のサポートとして、タウンフォーラムなど、区民参画で意見を出す場もあるが、担当者によって対応が変わることがある。職員の個性はもちろんあると思うが、対応や基本的な方向性は共有していただきたいと思う。

参加者：職員によって違いはあると思う。また、年度で委託している事業者が変わると、やり方が変わることもある。

- 参加者：区民センターの運営は指定管理者に委託しているが、運営の基本的な考え方などはきちんと区と共有して進めてほしい。
- 事務局：指定管理者の評価は定期的に区で実施し、区の管理の元で運営している。
- 参加者：先の意見に出ていた、コーディネーターのような役割が、区民センターや区民協働スペースにもいるとよいと思う。
- 参加者：町会・自治会の課題について、どのように他のコミュニティと連動させるかが重要だと思う。
- 参加者：地域の情報共有については、町会・自治会の役割から外してよいと思う。町会・自治会は防災など、既に役割をたくさん持っている。コミュニティの新しい取り組みができるようにサポートしてあげて、必ずしも町会と連携しなくてもよいと思う。
- 参加者：住んでいる人や、通りすがりの人が立ち寄れるコミュニティがあるとよいと思う。
- 事務局：町会・自治会はあくまでも任意組織で、区からは必要に応じて情報提供したり、財政的な支援をしたりするなど、サポート体制をとっている。防災の観点としては、小学校区の防災組織が最小単位と考えている。町会・自治会と人員や地域が重なっている場合も多く、それぞれ地域の消防署や警察署と連携している。
- 参加者：神社の氏子や、お祭り、行事は、町丁目や支所の地区区分とは異なる境界になっている。お祭りのときはお互いに支援しあうつながりはとてもよいと思う。
- 参加者：新しいコンセプトで合理的な組織があれば、自由にコミュニティが変形してもよいと思う。町会・自治会はコミュニティのひとつと捉えてよいのではないか。
- 事務局：港区民としての意識は薄いかもしれないが、自分が住んだり関わったりしている地域への愛着は既に根付いていると感じる。転入者や若い方がコミュニティに参加するきっかけづくりが重要ではないか。
- 参加者：人によって興味や必要性が違うため、接点の持ち方は多様になるのではないか。
- 参加者：いろいろなところでカフェを開催しているが、小規模にやっており、外国人や働く世代、学生などは参加しにくいと思う。もっと自由に参加できる場所や情報が集まる場所こそ、区が主導で整えられるとよいと思う。
- 参加者：渋谷区で、パナソニックと2社が「100BANCH」という取組を行っている。若者が渋谷の未来に関わる活動をする場所を提供するもので、コミュニティマネージャーが常駐し、コーディネートや発信のサポートをしている。港区でも、大規模事業者がたくさんあるため、もっとコミュニティ活動に参加してもらえるとよいのではないか。また、参加を呼び掛けるためには、港区がどのような区を目指しているかビジョンを明確に示す必要があると思う。
- 参加者：個人の取組に限界がある部分を、法人も区民の一員として協力してもらえるとよいと思う。また、魅力や価値は様々で、区民にとって愛着を感じる、心地よい区であることは必要だと思う。
- 事務局：区としては、課題は行政だけでは解決できないため、区民や事業者のみなさんと協働で解決していく、そういうコミュニティをつくることを方針としている。
- 参加者：ゴミ拾いやCSR活動に取り組んでいる事業者はたくさんあるが、コミュニティ活動に積極的に関わっている事業者はあまりない。あるかもしれないが、知られていない。事業者も主体的に関わっていただきたい。渋谷区の事例のように、パンチ力のある取組をし

てくれる事業者があるとよいし、そうした働きかけを区から行っていくことも今後は必要である。

参加者：「芝の家」は子どもがいていつも賑わっているが、「ご近所ラボ新橋」はあまり人が集まっていないように感じる。既にある取組をもっと活かせるよう考えられるとよい。誰でも気軽に入ってもよいということだが、入りにくい雰囲気を感じる。

参加者：いろいろな取組はあるが、あまり知られていないことが課題である。区民センターなどにチラシもあるが、たくさんあり探しづらいため、整理できるとよい。参加しにくいことも課題であるため、参加のきっかけづくりに重点を置くとよい。

参加者：コミュニティマネージャーのような方を発見、育成するためにはどうすればよいか。

参加者：ある程度は既にできていると思う。しかし、そこから零れ落ちてしまうのは外国人や事業者、学生ではないか。紹介する場所、相談できる場所を区が用意して、サポートできるとよいと思う。高輪図書館の入口で月2回やっているカフェは、入りやすく、いつも賑わっていて成功している。外国人の方にとっても、日常的なつながりを持つことで、困ったときや災害時に頼れる場所になると思う。

参加者：先日の台風の際、外国人の方は防災アナウンスが聞き取れないと困っていた。

参加者：町会・自治会で災害時の外国人への対応まで行うのは荷が重いと思うため、カフェのような場所が緊急時や情報の受け皿になることができるとよい。いろいろな団体が自由に動けるような状況を作ってあげることが区の役割だと思う。

参加者：外国人の方で、学校からのお知らせが紙やFAXで届くのがわかりにくいという意見を聞いた。外国人は、国どうしの集まりがあり、それぞれのコミュニティや情報網も持っていると思う。

地域コミュニティの課題は情報発信ではないか。一方で、情報の受け手側も、意識を持つこと、アンテナを広げることが重要である。

参加者：情報がありすぎて取捨選択、整理できていないと、見る側も億劫になってしまう。

事務局：芝浦港南地区は、子育て世帯が多いが、マンション管理組合や自治会がしっかりしている。防災訓練などをすると、かなりの人数が集まる。学校のコミュニティが町会・自治会に結びついていると思う。

参加者：学校はコミュニティの接点としてキーポイントになると思う。

参加者：若い世代にどのようにコミュニティに関心を持ってもらえるのかを考える必要がある。

参加者：南青山の児童相談所建設問題や先日の台風、オリンピックなど、単発的なきっかけで港区やコミュニティに関心を持ったが、もっと日常的にコミュニティを知ることができないかと考えている。

参加者：コミュニティとの接点を絞り込んでいくことが、きっかけになると思う。切実に地域コミュニティの存在を必要としている方はどのような人か、適切に捉える必要がある。

事務局：テーマ1については、多角的にご意見をいただいております、ある程度ご意見が出尽くしてきたため、一旦提言の形にまとめてはどうか。

リーダー：今日までの議論を提言書のたたき台としてまとめていただき、それに対してご意見をいただき反映、修正していけるとよい。

事務局：それでは、次回のグループ会議では、テーマ1の提言書のたたき台を確認していただく。また、テーマ2に関する現状と課題、将来像、取組の方向性について議論する。

3 その他

次回のグループ会議は11月5日（火）18時30分から、港区役所9階研修室で開催する。

（閉会）

リーダーが第3回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年11月5日（火）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：3名（3名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（地域振興課長、赤坂地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 検討テーマ1に関する提言書（たたき台）について
- 2 意見交換（検討テーマ2に関する課題と将来像について）
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	検討テーマ1 提言書（たたき台）
2	検討テーマ2に関するこれまでのご意見
参考資料1	第3回グループ会議 議事録

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第4回グループ会議の開会が宣言された。

1 検討テーマ1に関する提言書(たたき台)について

検討テーマ1「地域コミュニティのあり方と継続的な体制づくり」の提言書(たたき台)について意見を出し合い、議論が行われた。

(主な意見等)

参加者：現行の港区基本計画では、どのような将来像を掲げているのか。

事務局：現行計画では、区全体の課題やめざすべき姿を6、7ページに示している。しかし、グループ会議のテーマごとの将来像に当たる部分はない。

参加者：地域コミュニティの将来像としては、孤独感を感じることなく暮らせるまちになっているとよいと思う。

参加者：5年後、10年後には、区外に住んで港区に働きに来る人が今より多くなると思う。その時の地域コミュニティはどうあるべきか、考える必要がある。外国人や高齢者、介護者、シングルマザーなど、地域コミュニティに十分に入り込めていないマイノリティの方が、不安を感じることなく生活できるよう支援する必要があると思う。災害や台風も増えているため、区でも専門職員を増やして体制強化し、わからないことや不安なことを相談できる場所をつくとよいのではないかと。

事務局：外国人などとの多文化共生については、タウンフォーラムの国際化・文化グループでも検討を行っている。

参加者：外国人も地域コミュニティの一員として支援が必要だと思う。多文化共生については、区内ではどの部署が担当しているのか。

事務局：地域振興課の中に、国際化推進の担当部署がある。具体的な取組としては、様々な情報の多言語化や、「やさしい日本語」も取り入れている。英語圏ではない外国人の方にとっては、ふりがなを振った簡単な日本語のほうがわかりやすい場合もある。

参加者：高輪支所で子育て相談をしており、外国人のお母さんの参加者が増えていると聞いた。相談コーナーで顔見知りや友達ができることで、より相談しやすくなるのだと思う。いろいろな方の垣根がなくなる取組ができるとよい。区の組織は縦割りにになっているが、専門の職員を置くなど、横をつなぐ体制づくりがもっとできるとよいと思う。

事務局：情報がなかなか入ってこない、どこに相談したらよいかわからないというご意見をいただくことがある。

参加者：一般の方はなかなか行かない、知らない施設や取組が多いと思う。いろいろなことを相談できるコーディネーターのような役割の方が、身近にいるとよいと思う。テーマ2に関連するが、スマホやパソコンを使った情報収集ができない人もたくさんいる。

参加者：すぐに情報収集できる人と、できない人がいる。誰もが身軽にどこにでも行けるわけではない。情報収集ができない人に対してどのように支援するかが重要だと思う。

参加者：提言書(たたき台)で「コーディネーターによる支援」とあるが、人材だけでなく、支所や区民センターなど、窓口になる場所をつくることも重要だと思う。

- 参加者：最初は区の場所や職員を活用して支援できる体制をつくり、いずれはボランティア団体などに役割を任せられるのではないかと。
- 事務局：区では、問い合わせ窓口としてコールセンター「みなとコール」を設置している。また、まだ精度は低いですが、AIによる外国語対応なども検討している。
- 参加者：国際学級を設置している小学校には、相談役となる担当者を配置してはどうか。子どもは意外と柔軟に対応できているが、母親は日本語がわからず困っているという話を聞く。英語も日本語もわからない外国人の方もたくさんいると思う。
- 参加者：マンションの問題について、ワンルームマンションは管理体制が十分ではないところが多いように感じる。
- 事務局：新築ではなく、築年数が経過したマンションで管理体制が整っていないところが増えているのではないかと。
- 参加者：耐震診断をして不適合になると、銀行の融資が受けられなくなったり、資産価値が落ちたりするため、耐震診断をしたがらないマンションがあると聞いた。
- 参加者：地域コミュニティの観点からは、投資用でオーナーが住んでいないマンションが多くなっていることも課題ではないかと。
- 事務局：ワンルームマンションは、大学生、新社会人なども多いのではないかと。大学の生協などから住民に対して働きかけができないかと。
- 参加者：港区の大学生が港区に住んでいるとは限らない。また、何年かすると引っ越してしまう。しかし、大学生の活力はコミュニティの核になると思う。東海大学でも、地域の祭りに出張して神輿を担ぐというサークル活動などを行っている。
- 参加者：子どもの学校を接点に母親が地域コミュニティに参画するきっかけはできるが、就労世帯の父親はなかなかきっかけがないのではないかと。外国人向けの日本語教室をやっているが、日本語が上達しても長く在籍している方もいる。日本語を学ぶというより、居場所のひとつとして居心地が良いのだと思う。外国人はそれぞれの国の集まりやネットワークがあり、その中の誰かが違うコミュニティに参加していれば、情報が広がりやすいと思う。
- 事務局：提言書（たたき台）については、本日いただいたご意見も参考に加筆修正する。また、グループ会議後に追加のご意見があればメール等でいただきたい。

2 意見交換

検討テーマ2「地域コミュニティの発展支援」に関する課題、将来像、方向性について意見を出し合い、議論が行われた。

（主な意見等）

- 参加者：区民協働スペースは、どのような目的で使用する場所なのか。
- 事務局：区民のみなさんが区とともに地域の課題解決を図るため、「協働」の活動を行う際の拠点として利用していただく場所で、どんな活動にも自由に使える場所ではない。しかし、ご意見を踏まえてより柔軟な使い方を考えていくことは必要だと考えている。
- 参加者：使える団体やルールが厳しく、敷居が高いという印象がある。
- 事務局：自由に利用できる場所として区民センターもあり、棲み分けを考える必要がある。

参加者：自由に使える場所があるのはよいが、あまりルールを緩くすると、一般企業の利用が多くなり、区民が使えなくなってしまう。一般企業向けの貸し会議室が飽和しており、企業も行政の施設を利用することがあると聞いた。ルールを緩めすぎるのもよくないため、ルールをきちんと考える必要があると思う。

また、webなど実際に行かずにコミュニケーションが取れる場合は、情報交換や声かけもできて敷居が低いと思うが、個人情報の管理など、課題も多いと思う。コミュニティ活動の支援には、場所だけをつくるのではなく、ルールと合わせて考えることが必要である。

さらに、必要な情報が必要な人に届く体制も重要である。広報誌なども配布しているが、量が多すぎて読むのが大変だと思う。紙でもメールでもよいので、必ず届ける必要がある方には、着信確認してもらうという仕組みがあるとよい。

事務局：情報量が膨大で取捨選択が大変という指摘を多くいただくが、受け取り手が取捨選択するべきか。

参加者：高齢になると、取捨選択することも大変。発信する側がある程度選別してあげるのが良いと思う。必ず届けるべき情報と、時間の有無や興味で取捨選択できる情報とを分けるべき。また、メールなども文字だけではなく、イラストやキャラクターなどを活用して一目でわかるという工夫も必要だと思う。情報が増えれば増えるほど、見なくなる人も増えてしまう。

参加者：ただ情報を提供するのではなく、インデックス化して伝えることが必要ではないか。

参加者：コミュニティの立ち上げ支援についても、区役所で専門的にサポートできる職員を増やすべきだと思う。支所などに配置して、その人に相談すればなんでも対応してもらえると安心できる。体制が整った後の運用はともかく、団体の企画から立ち上げは、専門家がサポートしなければ難しい。

事務局：現時点では、区としての立ち上げ支援は手薄になっている。町会・自治会の支援は支所で行っているが、NPOなどの支援は不十分だと思う。

参加者：マルチメディアスポットのようなものを支所ごとに置くことができるとよい。施設をつくるのではなく人員を配置するだけなら費用も抑えられる。

参加者：一度挑戦してみて、新たに課題が出てきたら対応できればよい。窓口を置くことでいろいろな情報が入ってくるため、庁内の情報共有や対策もしやすくなるのではないか。

参加者：区の職員でも、対応に困ることがあればその専門家に相談できるとよい。

事務局：CSRの一環で地域貢献に積極的な企業も多い。特に港区内には大企業も多いため、企業とも連携してできるとよい。

参加者：いつも区役所に行くときは用事のある課を訪れるだけなので、何でも相談できる窓口がある、開かれた区役所になるのはよいと思う。

参加者：民間企業ではお客様カウンターがあるのは当たり前で、そこで得られる顧客のニーズは重要な情報になる。区役所のあり方にも関わるが、そこでやり取りをして、区民との垣根を無くしていくのはよいと思う。

事務局：転出入などの手続きを行う窓口では「フロアマネージャー」を配置して利用者の相談や案内をしている。

参加者：そうした役割が、区役所や支所だけでなく区民センターなどにもあるとよいと思う。

- 参加者：広報みなどは全戸配布で、広く情報を知らせるにはよいが、隅々まで読むのは大変である。行政の役割やスタンスとして、区民の自由な暮らしや活動のコーディネート、交通整理をするという考え方がよいと思う。区の基本方針や将来像も、そうした方向性に則って考えることができるとよい。
- 参加者：港区に転入してきたら、住民登録で必ず1回は区役所に来る。そのタイミングで、コミュニティ活動や相談窓口の紹介ができるとよいと思う。区から能動的なアクションがなければ、なかなか敷居は低くならない。区役所は便利なところだと思ってもらえる取組ができるとよい。区役所側も、区民側も、意識を変えることが必要。
区役所の業務として、土地や税金の管理などは将来的に機械化、省力化できる。余力を区民との連携に転換していけるとよい。
- 事務局：平成18年から区役所・支所改革として人員を増やし、本庁で行っていた手続きを総合支所でもできるようにしてきた。
- 参加者：その延長として、将来的に人が集まりやすい支所などにコミュニティの拠点となるスポットをつくり、さらに行政と区民の敷居を低くすることができるとよい。
コミュニティの場を整えることも必要だと思うが、場所は有限のため、webの活用などで簡単にコミュニティが作れる支援も行い、コミュニティに参加する意義をより幅広く持てるとよい。
- 事務局：コミュニティの発展支援というテーマの視点のひとつとして、地域コミュニティに参加する「きっかけづくり」についてはどうか。
- 参加者：生涯教育が重要だと思う。区民の興味や流行は移り変わるため、PR方法やタイミングによってもコミュニティに参加するかどうかは変わる。いろいろなきっかけを用意して、区民それぞれの興味やタイミングで、深く参加してもらえるようになるのがよい。
- 参加者：個人の興味は性別や年齢、ライフサイクルによっても変わるため、幅広いチャンスを用意することは必要だと思う。
- 参加者：興味を持ったことをPRするにはホームページは便利。しかし、今のホームページは必要な情報が全部載せられている。サークルやコミュニティ団体のPRや人員募集のためと、情報周知のホームページは主旨が異なる。区民センターなどの掲示板も、チラシがごちゃごちゃと貼ってありわかりにくいところもある。募集や内容紹介も、コーディネーターが間に入って対応してくれるとよいと思う。
- 参加者：コミュニティ団体などが人員募集をしているのはよいが、年齢や要件などの対象がわからない時がある。
- 参加者：Kissポート財団は区とどのように関係しているのか。情報誌に掲載できるとよいが、広告費がかかるため見送っている。コミュニティに関わる広告や募集は、区で掲載費を負担してもらえないか。Webもよいが、やはり紙媒体を見ている方も多いと思う。
- 事務局：Kissポート財団は区からも出資して設立した外郭団体で、指定管理者として区民センターや生涯学習センターの運営を行っている。コミュニティ振興、文化振興などの独自事業も行っている。広告費については、区のコミュニティ支援に必要な情報であれば一部負担することも一つの考え方である。
- 参加者：ホームページの運営や募集情報の分類整理など、素人が自分たちで調べて挑戦するのは難しいことでも、専門的な知識のあるコーディネーターに支援してもらえれば、大した

費用も時間もかからないと思う。

リーダー：テーマ2については、外国人等のマイノリティの方をどのようにコミュニティに引き込むか、一般の区民の方にも地域コミュニティへの参加をいかに浸透させるか、いかに区役所と区民の敷居を低くするか、区民としての意識を醸成できるか、といった点がポイントだと思っている。次回のグループ会議でも、具体的な事業などの内容について引き続きご意見をいただきたい。

事務局：それでは、次回のグループ会議では、テーマ2の将来像を実現するための取組、具体的な事業について議論する。

3 その他

次回のグループ会議は11月19日（火）18時30分から、港区役所3階産業・地域振興支援部会議室で開催する。

（閉会）

リーダーが第4回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年11月19日（火）18時30分～20時30分

会場：港区役所3階 産業・地域振興支援部会議室

メンバー：4名（2名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（地域振興課長、高輪地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

1 意見交換（検討テーマ2に関する取組の方向性、具体的な事業、参加と協働の推進について）

2 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	検討テーマ2に関するこれまでのご意見のまとめ
参考資料1	第4回グループ会議 議事録

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第5回グループ会議の開会が宣言された。

1 意見交換

検討テーマ2「地域コミュニティの発展支援」に関する取組の方向性、具体的な事業、参加と協働について意見を出し合い、議論が行われた。

(主な意見等)

- 参加者：「①コミュニティ活動の場の充実」について、区民センターはパソコンのシステムから予約できると聞いた。区民協働スペースは、そのようなシステムはないのか。
- 事務局：区民協働スペースは対象が限られているため、電話か窓口のみで受け付けしている。
- 参加者：区民協働スペースは、施設そのものの知名度が低いと思う。各部署ではそれなりに努力していると思うが、受け取り手にうまく伝わっていないのではないのか。
- 事務局：ご指摘のとおり、情報提供が不足しているというご意見をいただく。情報発信はしているが、効果的になっていない。
- 参加者：区民協働スペースは、全地域にあるわけではないのか。
- 事務局：おおむね各地区にあり、一番少ないのは赤坂地区で1箇所、他の地区では3、4箇所、区全体で14箇所ある。地区のバランスも考えながら配置している。
- 参加者：シルバー人材センターで、麻布区民協働スペースの受付を担当している。夜間も開館しており、最初はあまり利用されていなかったが、最近利用が増えたと思う。
- 事務局：麻布区民協働スペースは麻布地区総合支所の隣ということもあり、多く利用されている。
- 参加者：区民センターと間違えて来られる方が多く、カウンターに案内を置くなどして対応している。施設そのものを知らない方が多い。
- 参加者：区民協働スペースを利用するには、団体登録やいろいろな手続きがあるのか。
- 事務局：事前に団体の活動内容を申告していただき、協働のための事業をしているということで登録ができると、いつでも利用申込できるようになる。町会・自治会は、最初から登録している。区で把握していないNPO法人や団体の申請は区役所・各総合支所で受け付けており、1回登録すればどの区民協働スペースも使えるようになる。
- 参加者：区民協働スペースはとてもよいが、敷居が高いと思う。もっと気軽に人が集まる、いろいろな情報を持ち寄る場所が、あちこちに点々とあるとよいと思う。コミュニティ活動をする人が増えており、区民協働スペースだけではすぐに場所が足りなくなってしまう。小さなスポットを点々と、長期的に充実させていくとよい。
- 事務局：区民協働スペース全部ではないが、ロビーがある施設がいくつかある。そこでは、気軽に立ち寄り話したりできている。一方で、会議室しかないところもある。場所によるが、余裕があれば検討できるのではないのか。
- 参加者：麻布区民協働スペースは、場所もよく、受付の方もいて使いやすい。
- 参加者：受付はないところもあるのか。
- 事務局：区の施設と併設していないところは、基本的には受付を置いている。
- 参加者：芝公園区民協働スペースは、みなと図書館の読み聞かせでも使っている。ロビーにテー

ブルヤマッサージ機があり、とても使いやすいと思っている。

事務局：以前は福祉会館があり、その設備を利用しているのかもしれない。スペースに余裕があれば、そうした設備を検討してもよいかもしれない。

参加者：何時まで利用できるのか。

事務局：場所によって異なるが、麻布区民協働スペースは、朝9時から夜9時まで開館している。土日は少し早く、午後5時までとなっている。赤坂区民協働スペースは支所の中にあり、町会・自治会の方が資料作りでよく利用している。区民センターも併設しているため、赤坂地区には区民協働スペースが1箇所しかないが、当面不便ということはないと思う。

参加者：麻布台の再開発について、約2,000戸のマンションができると聞いた。それだけ人口が増えるとなると、人口に応じた区民協働スペースなどを確保していくのは難しいと思う。また、町会・自治会としても、マンションを含めた街全体の話をしたくても、マンションの規模が大きすぎて受け止めきれない。全てのコミュニティに場所を提供するのではなく、気軽に立ち寄れる小さなスポットを作ったり、いろいろなコミュニティへの入口を紹介する場所を充実させたりするほうがよいと思う。

参加者：ここに来れば何か接点がある、というスポットがあればよいが、それが無いから上手くつながっていない、という状況ではないか。少し費用をかけてでも、整備する必要があると思う。

事務局：高輪ゲートウェイ駅周辺の再開発によって、高輪二丁目、三丁目、三田三丁目の区域が広がることになる。まったく新しい街ができることになるため、町会域がどうなるか、住む人や働く人がどのように判断するかはまだ見当がつかない。

参加者：人によって好みや交流の仕方も異なるため、全て町会・自治会だけで解決はできない。どこで何に接点を持つかは人それぞれで、いろいろなコミュニティがあるのが当然だと思う。その接点を簡単に持てない人にどのように対応するかが重要だと思う。区民協働スペースは、利用者などに取組を働きかけることはしていないのか。

事務局：コミュニティ団体以外に働きかけはしていない。区民協働スペースは、あくまでも支所の会議室を協働のために活動する方たちに無料で貸し出すというコンセプトのため、空いているからといって自由に誰でも使ってもらうことは考えていない。しかし、使いやすさや周知はまだ改善の余地があるため、使い方を見直しは検討できると思う。

参加者：これまで、何らかの形で地域コミュニティと接点を持つことが必要だという議論をしてきたため、区からももう少し積極的に働きかけや、区民協働スペースも活用した取組みを行ってもよいのではないか。もちろん、区だけに任せるということではなく、区民やコミュニティ団体も参画していけるとよいが、最初の土台は区が先導して整えてもらえるとうりやすいと思う。

参加者：区民協働スペースを利用する立場でいえば、麻布区民協働スペースは場所がわかりづらいところにあると思う。立て看板なども置いており、地域の方にももっと参加していただきたいが、自分達のメンバーしか来ていない。イベントのチラシを配ったところ、いくつか問合せの電話が来たが、一般の方にはまだまだ認識されていないと思う。

参加者：コミュニティで集まる場所を区が全部準備するのは無理だと思う。区民協働スペースの利用者を広げると、途端に競争になってしまうのではないか。特別な時に柔軟に対応するだけでよいと思う。場所を用意するのではなく、相談先の窓口になる場所を用意して、

どこに行ったらよい、どこに情報があるという手配ができればよいと思う。

事務局：相談先の窓口は、区の職員イメージか。

参加者：外部に委託するよりは、区の職員で、その中でも専門家を育てるべきだと思う。地域ごとに数人いれば、その人たちが地域を引っ張ってってくれるようになる。そこに情報がどんどん集まれば、もっと情報化社会が進んでも、区が先導できると思う。

参加者：順番が前後するが、人材育成は「③コミュニティ活動の支援」に関わる。情報発信だけに限らず、地域コミュニティをコーディネートしてくれる窓口になる機能が必要だと思う。港区の広報なども見ており、いろいろな情報提供や整理をしていることはわかるが、多すぎると思う。

事務局：受け取り手からすると、自分が見たい情報だけ欲しいわけで、取捨選択が難しい。

参加者：区民センターなどの掲示板に、コミュニティ団体の募集やイベントのチラシが貼ってあるが、紙で見て探すのは大変だと思う。スマホやパソコンでも探せるホームページがあると、応募がしやすい。投稿するためにはある程度審査をした方がよいと思う。先日イベントで街紹介のパンフレットをもらったが、参加者から「同じようなものがたくさんあり、無駄遣い」という意見を聞いて驚いた。区でも、いろいろな部署が資料やチラシを紙で配るため、同じように見えるのかもしれない。

参加者：コミュニティに興味のある方だけではなく、あまり興味のない方にも広げていくよう工夫しなければならないと思う。いろいろなところにばらばらと置いて、あつたり無かつたりと整理されていないのではなく、1箇所で全部網羅できるとよい。また、内容が重複しているものは作らない工夫も必要。

参加者：別の目的で区民センターなどを訪れた方でも、チラシを見る人は見るし、全く見ない人もいる。普段からアンテナを張っている人ばかりではない。総合支所でもいろいろなチラシなどを置いているが、新しいものもあれば、ずっと置いてあるものもある。

事務局：提供している情報が多すぎるという認識はしている。カウンターやラックにもパンフレットがたくさん並んでいる。一方で、区内の掲示板などを見ての問い合わせもある。区としては、より多くの方に情報を届けるためには、紙媒体や掲示板、ホームページ、SNSなど様々な媒体を使って発信をする必要があると思っている。

参加者：掲示板は区のものか。

事務局：区設掲示板を各所に設置している。それとは別に町会でも掲示板を持っており、区のチラシなどを貼っていただいているところもある。

参加者：情報発信にはいろいろな方法があり、受け取り手も様々だと思うが、本当に伝わっているのか疑問もある。区だけではなく、どのように区民を巻き込むか、育成していくかが重要である。地域の世話役のような役割は、昔は自然発生的にあったが、今の時代はなかなか難しいと思う。人材育成にまで立ち入らなければ、コミュニティはなかなか育っていかないのではないか。

特に、勤労世帯をどのように巻き込んでいくかが重要だと思う。子どもや親は学校を通して接点を持つが、働いている人は時間やチャンスがないと思う。例えば、ファミリーという接点からアプローチできるとよい。

参加者：高輪地区の情報誌「みなとっぷ」では、子育て中の方など、若い編集者が増えている。強制ではなく、来られるときだけ来てよいとなると、一生懸命取材や撮影に行ってくれ

る。興味を持って、参加しようという意識はあると思う。若い方がいると、その人たちの興味のある分野を取り入れるため、記事がぐっと若返る。

事務局：先の話題にもつながるが、「②情報発信、情報の整理」で、情報を集約・蓄積して区民が自由に活用・発信できるシステムがあるとよいというご意見があった。これも、ホームページのようなイメージか。

参加者：ホームページやSNSでもよいし、紙でもよいと思う。これから情報化の時代には、文字情報は十分あるが、画像の情報はまだ弱いと思う。画像検索の技術も発展すると思うので、いろいろな方がスマホなどで撮った写真を共有できる場所があって、いろいろな方が自由に使えるとよいと思う。情報が増えすぎている中で、区がどこまでやるのか、どこからは個人なり企業の自由に任せるのか、区切りをつけることが必要だと思う。また、先日の台風の際、行政から孤立した村の住民にメール等で一斉に情報を流していたと聞いた。災害時だけでなく、そうした情報提供の方法もあるのではないか。

事務局：国では、マイナンバーを使ってそうした取組みも考えていたが、なかなか実現できていない。区でも、例えばシルバーパスの更新時期などをお知らせできると便利だが、個人情報ということもあり、難しいのではないか。好きなジャンルに登録して、メールマガジンが届く取組みはしており、子育て関連情報は登録が多いと聞いている。ジャンル分けを細かくするなど、今ある仕組みを改良していくことは考えられるのではないか。

参加者：区内の花の写真撮っているが、今どこにどんな花が咲いているか、発信するツールがない。そうした情報を知りたい人も、知っている人もたくさんいると思う。受け皿になるインフラを区が準備してくれれば、参加する人はたくさんいると思う。

事務局：情報が欲しい方がいても、情報発信してくれる人と、発信する場所がなければできない。発信したい方にとっても、ここに情報を出せばみんなが見てくれる、という受け皿があるとよいのではないか。

参加者：お花の情報交換などは、とてもよいと思う。

参加者：場所がなくても、そうした交流もコミュニティ活動の一つだと思う。

事務局：伊豆半島では、「i-zoom」という写真投稿サイトを運営している。住民や観光客が写真を投稿でき、コメントなどができるようになっている。伊豆半島はいくつかの市町村が該当するため、静岡県や観光協会などが立ち上げや運営に関わっている。

参加者：お花や食べ物など、人が興味を持ちやすいことから始めると、見る人が増える。初めからいろいろ盛り込むと大変になってしまう。

参加者：情報発信は、発信する側の意図が受け取る側にそのまま伝わるとは限らないため、最初は小規模でも初めてみて、だんだん広げたり改良したりしていけばよい。特定の地域に特化した情報でも、情報があると結果的に区民意識につながる可能性もある。

参加者：港区はいろいろな魅力のある場所だと思う。それぞれの地域にいろいろな魅力があり、それを知ることによって住んでいる街がより楽しいと思える。

参加者：情報発信は、発信方法やニーズがどんどん変わるものだと思う。長く続けていると、発信する側も受け取る側もレベルアップして、だんだん良くなると思う。区内の写真撮っており、行事や花の写真を集めてホームページを作っている。港区のシティプロモーションに写真提供もしている。

事務局：地域コミュニティとは異なるが、産業振興課で、シティプロモーションの一環で「港区

ワールドプロモーションVR映像」というものを作成している。配布したグッズを組み立ててスマートフォンに取り付けると、立体的な映像が見られるようになっており、港区内の観光地などよいところを紹介している。総合支所の窓口などで配布している。

参加者：よく見ると素晴らしい資料や冊子はたくさんあるが、窓口に並べているだけでは、見ない、気づかない方が多いのではないかと。こういうものもある、こう使うとよいと一言声をかけてもらえると、とてもよいと思う。

参加者：駅などにも資料やチラシを置くことができると、よいPRになると思う。

事務局：駅のスペースにも限りがあるため、いろいろなものを置くことは難しい。「広報みなど」と「港区コミュニティ情報誌キスポート」を置いてもらっている。

参加者：こうしたグッズや広報資料について、庁内の情報整理はどのようにしているのか。各所管部署で作成、配布しているのか。民間企業では、社外へ公表する資料は広報部が全て確認するように、区でも横並びで管理し、取捨選択も必要ではないか。

事務局：広報誌以外は基本的に各部署に任せている。児童館など、関連する施設に配布してもらうには担当部署でないと選択が難しい。また、学校を通して子どもから保護者に配布してもらう資料もあるが、多すぎて全て目を通して保護者は少ないと思う。

参加者：行政の資料は、プライバシーや著作権、間違いがないかなどの確認が細かい。細かく確認するところと、もう少し緩くてもよいところの区切りをつけ、もっと簡単に情報発信できるとよい。

事務局：お祭りなど、コミュニティの活動が一般の方にも見えるのは大きなPR効果だと思う。1回だけでは難しいが、何度も見かけると興味を持ってくれる方もいるかもしれない。活動が見える場所ですていくことも、ひとつの情報発信ではないか。

参加者：よいPRになると思う。お神輿を担ぐのに学生がたくさん参加してくれるようになっていく。

事務局：情報発信や活動の支援で、コーディネーターの担う役割が多くなっている。1人が全て担うのではなく、情報提供や、ホームページの運営など、専門分野がいくつか分かれているイメージではないか。専門家になる方は、区の職員だけではなく、将来的にはコミュニティ活動を行っている区民の方に担っていただくとよい。

参加者：最初は区の職員が担ってくれるとよいが、職員のOBなどに参加してもらうことも考えられるのではないかと。

事務局：町会で活動されている方などは、意外と地元出身の方がたくさんいる。一方で、転入者も多いため、昔から住んでいる方と新しく住民になった方のギャップは課題である。

参加者：ギャップを埋めるのは無理があると思う。しかし、転入者やマンションの方にも、区民という意識、自分たちも区を住みよくするために協力するという意識をどれだけ持ってもらえるかが重要だと思う。

事務局：年間2万人以上の方が転入、転出しているが、理由までは把握できていない。

参加者：港区に住み続けたい方は多いと思う。私のマンションでは、高齢化が進んでいたが、子ども世代が管理組合の運営に参加してくれるようになった。設備や防災が得意な方がいて、積極的に取り組んでいると、周りもよく協力するようになった。区でも、情報やコミュニティの専門家を育てていけば、どんどん知恵が集まるようになると思う。

参加者：「④参加のきっかけ作り」は、これまでの議論でも出てきていたが、具体的な事業を考

えるとなると難しいのではないか。

事務局：「④参加のきっかけづくり」は、「②情報発信、情報の整理」に集約できるのではないか。

リーダー：それぞれ相互に関係しているため、あまり細かく分けて、②に含むということによいと思う。

参加者：これまでの町会・自治会ベースではなく、マンションや企業を一つの組織やコミュニティとして捉えるとよいと思う。スポットを作るなどの取組が、きっかけ作りにもつながるのではないか。具体的な事業や解決策を出すのは難しいと思う。

事務局：次回のグループ会議では、テーマ1、2の提言書（たたき台）を確認していただき、不足があれば詳しく議論する。

2 その他

次回のグループ会議は12月11日（水）18時30分から、港区役所9階913会議室で開催する。

（閉会）

リーダーが第5回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年12月11日（水）18時30分～20時00分

会場：港区役所9階 913会議室

メンバー：4名（2名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（地域振興課長、芝地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ
担当1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

1 提言書（たたき台）について

2 意見交換

3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	検討テーマ1 提言書（たたき台）
2	検討テーマ2 提言書（たたき台）
参考資料1	第5回グループ会議 議事録

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第6回グループ会議の開会が宣言された。

1 提言書（たたき台）について

事務局より、テーマ1及び2の提言書（たたき台）について説明した。

2 意見交換

提言書（たたき台）について意見を出し合い、議論が行われた。

(主な意見等)

参加者：今後の高輪周辺の再開発の予定を聞いたところ、10箇所ほどある。大規模マンションが建設されて一気に住民が増えると、町会では許容範囲を超えてしまい大変という話を聞いた。新しい住民や外国人が増えた時に、区役所も対応できるのか、これまでのコミュニティが守れるのか不安に感じている。新しいマンションに対して、自治会や管理組合をきちんとつくってもらえるよう、働きかけが必要ではないか。災害時には助け合わなければならないため、事前に助け合いの認識や体制をつくっておかなければならない。大規模な再開発で転入してくる人もいるが、転出してしまう人もいる。地域に昔からいる人がいなくなってしまうたら、地域を支えてくれる人がいなくなると不安に感じる。また、新しい人が来ると、情報を探す人も増えるため、ツールの整備と、コーディネーターが情報の整理をすることが必要。提言については、区としても積極的に区民に働きかける、協力する姿勢を示すことができるとよい。

参加者：ページの制約もあるため、提言書にまとめるとぶつ切りになってしまうが、これまで議論してきた地域コミュニティの課題や危機感を持っているポイントを示すことができるとよい。また、国際化や多様化により、昔からある伝統的なコミュニティが薄れつつある。もっと大事に継続していくためにはどうしたらよいか、グループ会議のポイントだったと思う。

事務局：大規模開発による新築マンションの体制を整えることについて、提言書のテーマ1の具体的な事業に「マンションと地域連携の充実」と記載しているが、内容はどうか。

参加者：マンションで自治会や管理体制をきちんと作ってもらい、地域の町会・自治会とも連携してもらうことが重要。中規模マンションでは、個別の自治会を組織するのは難しいかもしれないが、防災面などで近隣のマンションと連携することは考えられる。自治会などにノウハウを持つ人がいたり、区のコーディネーターから専門的な知識をアドバイスしてもらえたりすると、ノウハウが継承されると思う。

事務局：再開発で大規模マンションができた際に、地域の町会・自治会はどのように対応したらよいか。

参加者：一気に転入者が増えるため、地域に元々ある町会・自治会では受け入れきれないと思う。マンションはマンションで独立して管理体制を整えてもらい、町会・自治会とは適宜連携してもらった方がよい。最近では、エレベーターが高層用と低層用で分かれていたり、隣の部屋にどんな人が住んでいるか知らなかったりと、マンション内の付き合いが薄い

という話をよく聞く。

参加者：マンションといえど、個人的に地域の町会に参加してもらえるとよいのではないか。

参加者：それぞれのマンションや町会・自治会のスタンスによる。役員や町会費の問題で、マンション単体で町会を組織した方がやりやすいところもある。

事務局：セキュリティに配慮するあまり、ポスティングや、行政の訪問調査も断られることがある。行政としては、地道に掛け合うしかない。

参加者：ラウンジのような場所があるマンションもあるが、住民が活用して何かすることはないのである。

参加者：結局一部の人が占用する状況になったり、そもそもワンルームマンションではラウンジがなかったりと、あまり活用されている話を聞かない。

参加者：マンション内では難しいかもしれないが、せっかく港区に住んでいるからには、町会・自治会や、コミュニティの活動に参加し、区民としての意識を持ってもらいたい。区としても、積極的に勧誘していくべきだと思う。

参加者：コミュニティ活動を積極的にする人はよいが、消極的な人を引きこむには苦勞する。港区のことを知って、愛着を持ってもらうためには、区に興味を持ってもらえる仕掛けが必要だと思う。港区の文化や自然を教える、社会教育講座のようなものを、あちこちで開催するとよいのではないか。例えば、この公園にはこんな植物が生えているとか、社寺仏閣、芸能、手芸、子育てアドバイスなどなんでもよいが、いろいろなことをいろいろなところでやっていたら、何かしら興味を持ち、地域コミュニティに関わったり、開催する側に参加したりするきっかけになると思う。

参加者：そうした取組みは、広報などによる周知も重要ではないか。

参加者：提言書のたたき台にも書いてあるが、「(仮称) 地域コーディネーター」が、支所などの「(仮称) マルチスポット」でそうした講座ができるとよいのではないか。

事務局：テーマ2の具体的な事業では、マルチスポットの設置や、コミュニティ支援サイトの運用について記載している。支援サイトのトップページに「今日のトピックス」という形で区内のお花や場所を紹介するのはどうか。講座は、地域コーディネーターが講師をするイメージか。

参加者：地域コーディネーター自身が講師をできるとよいと思う。主婦や高齢者など、区内の花に詳しい人はたくさんいるため、情報を支援サイトに集めてもらえるとよい。集まった情報を整理して、「今月の花の見どころ」などを支援サイトやマルチスポットから発信できると、他の区民にも伝わるのではないか。

参加者：港区では、観光ガイド制度のようなものはしているのか。

事務局：観光客や来街者向けに、観光ボランティアの取組や観光大使の制度がある。

参加者：港区に暮らしていても、区内のことで知らないことがたくさんある。自宅の近くの公園でも、通るだけで入ったことのない場所もたくさんある。港区は規模が大きすぎる分、顔が見える関係が作りにくいと思う。そうした港区の特性の中で、みんなが心地よいコミュニティをどのように作っていくかが重要だと思う。

参加者：よい地域コミュニティをつくろうと積極的に活動している方はたくさんいる。町会・自治会のお祭りや、商店街のイベントなどにも、参加者は多い。マルチスポットをつくって、そこに行くといろいろな情報がたくさん見つかる場所を用意することが大切。そう

いう場所があると、今日は暇だからちょっと行って話を聞いてみようなど、居場所ができると思う。

参加者：図書館は区民センターに併設しているのか。図書館は気軽に行きやすく、大事な居場所の一つだし、情報発信の拠点にもなり得る場所だと思う。

事務局：区民センターに必ず図書館が入っているわけではない。図書館単独の施設や、子育て施設などと併設しているところもある。近年では、開館日を増やしたり、電子化が進んだり、イベントを開催したりなど、図書館の運用の仕方も変わってきている。イベント自体は知られていないものもあるかもしれないが、子ども向けのものは参加者が多い。

参加者：大人向けのイベントは企画が難しいが、子どもを介すると、地域コミュニティに関わるきっかけになりやすいと思う。図書館だけでなく、区役所に来る機会は何回かあるため、それをチャンスに地域コミュニティの存在を知ってもらうよう情報提供ができるとうい。

事務局：ある町会で、地域SNSの導入を予定しており、町会以外の方にも知ってもらうため幼稚園や保育園に情報提供していると聞いている。支援サイトでは、単に行政情報だけではなく、神輿の担ぎ手募集など、地域のタイムリーな情報をアップしてもらえるとよい。

事務局：提言書のたたき台に「コミュニティ支援サイトの充実」と記載しているが、支援サイト自体の周知も必要ではないか。

参加者：サイトそのものの周知は必要だが、情報提供自体は十分充実していると思う。逆に、こういうことに興味がある、と発信する場が必要だと思っている。それを見て、ここでやっていると教えてくれる仕組みがあるとよい。例えば、神輿を担いでみたいという人がいても、町会のお祭りに飛び入り参加してよいかかわからない。また、港区で働いている方や、企業もサイトで発信をしたり、参加したりしてもらえるとよい。

参加者：社会貢献活動を積極的にしている企業は多いが、知られていないことが多いと思う。お祭りに参加したり協賛したりしている企業もある。

参加者：企業も支援サイトに書き込んでくれるとうい。区民だけでなく、企業にも働きかけをするべきだと思う。

参加者：地域のイベントに協力や、場所を提供してくれる企業はある。

参加者：企業は社会貢献として参加しているため、利益が出すぎない範囲で協力してくれるのではないか。

参加者：提言書のたたき台は、これまでの意見が反映されており、よいと思う。

事務局：今日いただいたご意見も踏まえて、言葉足らずになっているところや、具体的な事業の内容を修正する。

3月の提言式では、グループごとに提言の内容をパワーポイントで発表する。1グループにつきスライド5～10枚程度、発表は5分程度になるのではないか。次回のグループ会議では、提言書の修正と、パワーポイントのたたき台について議論していただくということでよいか。

参加者：進め方はよいと思う。5分程度であれば、スライドの枚数や文字は少なくして、課題や要点をコンパクトに説明した方が印象に残るのではないか。

参加者：あまり長く説明しても仕方ない。イラストなどで説明できるところは、イラストにするとわかりやすいのではないか。

参加者：テーマ1と2は、将来像や内容を分けて説明しなければならないのか。

事務局：地域コミュニティは他のグループに比べると分野が狭いため、テーマ1と2で共通する部分もあるが、これまで「体制づくり」と「発展支援」で話し合ってきたため、このままテーマ2つとさせていただきたい。将来像は、港区の地域コミュニティの理想像を示す意味で、共通としてもよいかもしれない。

参加者：テーマ1も2も将来的に目指すところはあまり変わらないのではないか。

事務局：将来像は共通に修正するが、その下のテーマは、これまでの議論も踏まえて分けたままとさせていただく。パワーポイントは、事務局で骨子案を作成し、次回のグループ会議でみなさんに確認していただく。

リーダー：説明したい内容のメモは、時間があればメールで送付する。提言書の修正は、年内にももらえるか。

事務局：修正した提言書は、年内にメール等で送付する。次回のグループ会議は、修正した提言書の再確認と、パワーポイントの確認とする。提言式は、3月23日（月）18時30分から開催する。

リーダー：みなさんのご協力で和気あいあいと話し合いができ、提言書も形ができつつあり、感謝している。区民と区の垣根がなくなると、区としてもう一步前進できるのではないか。そうしたことを提言書に盛り込めるとよい。

3 その他

会議の進捗状況を踏まえて12月19日（木）のグループ会議は休みとし、次回のグループ会議は1月14日（火）18時30分から、港区役所9階912会議室で開催する。

（閉会）

リーダーが第6回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和2年1月14日（火）18時30分～20時00分

会場：港区役所9階 912会議室

メンバー：4名（2名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（地域振興課長、麻布地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 提言書（案）について
- 2 提言式の発表資料について
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	検討テーマ1 提言書（案）
2	検討テーマ2 提言書（案）
3	提言に向けた今後の進め方について
4	提言式発表資料（案）
参考資料1	第6回グループ会議 議事録

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第7回グループ会議の開会が宣言された。

1 提言書(案)について

事務局より、資料1、2の提言書(案)について説明した。

提言書(案)について意見を出し合い、議論が行われた。

(主な意見等)

参加者：短期的なテーマは良く整理されているが、長期的な視点や、世界の先端都市としての提言が弱いように感じる。特に、次世代に向けた情報インフラの整理、行政と民間のデータベースの相互利用に触れられないか。そうした視点で、気になった点を配布資料の黄色マーカーの部分に記載している。

事務局：ご指摘を踏まえ、言葉足らなくなっていた部分は反映するよう調整する。

参加者：港区の先進性や、多様な区民がいるという点は入れたほうがよいと思う。

参加者：大規模な開発がたくさん予定されており、後から区役所の体制を強化しようとしても間に合わない。早めに体制を整えることは大事ではないか。

参加者：大規模開発や新築情報は調べればわかるが、個々のマンションの運営がうまくいっているのかは共有されていない。管理会社に運営や管理を依存しているところが多く、委託料によっても管理内容は異なると思う。マンション所有者による理事会などはきちんと機能していないところが多いのではないか。海外では、マンションを新たに購入するとなると、管理組合が入居者を審査し、入居の可否を決めている。マンションの価値を所有者で守ろうという意識が根付いていると感じる。

参加者：ワンルームマンションでは、運営や管理体制がうまくいっていないところは、不動産としての価値が下がっていると聞いた。各マンションの管理体制を整えることは、よい地域にするためにも必要だと感じる。

参加者：建物自体の管理も必要だが、住民の体制や連携づくりも重要なことだと思う。

参加者：具体的な事業について、区民協働スペースで受付を担当しているが、活動場所として認知されてきていると感じる。サロンを開催しており、そこに行けば誰かいる、会えるという場所になるとよいと思う。

参加者：様々なコミュニティ活動に興味がある人は多いと思う。活動しやすくするためにも、区民協働スペースなどは利用しやすく、利用率を上げられるとよいと思う。一方で、参加者が固定化されており、新しい方が参加しにくいという課題もあると感じる。

参加者：気軽に参加できる人はよいが、参加のきっかけがない人、情報をうまく得られない人もいると思う。知人の紹介で参加するというきっかけは重要だと感じており、積極的に声がけしている。

参加者：地域コミュニティに参加するきっかけとして、生涯学習は重要だと思う。歳を重ねたり、時間ができたりすると興味のある分野が変わることもある。何かに参加すると、そこで知り合いができて新しいものに参加することもある。港区では、防災に関する団体や活動はたくさんあるが、街の歴史などは少ないと思う。防災に関するコミュニティ団体と、

町会・自治会の範囲が異なる場合もある。

事務局：きっかけがどんなものでも、様々な取り組みが新しい取り組みや団体に広がっていき、地域コミュニティ全体が活性化していけばよいと思う。

参加者：最近、高齢者も含めてSNSで人のつながりをつくっている方は多い。家にいて人のつながりを持てるというのは新しい視点だと思う。そうしたネット上の活動を行政がどのようにサポートできるかが重要ではないか。高輪みどりははぐくむプロジェクトには、親子で参加している方もいて、年齢関係なしにつながりを持てると思う。会議をする際には高齢者が集まることが多いが、作業をする時には幅広い年代が集まっていると聞いた。

参加者：マンション住まいの参加者が多いのか。

参加者：マンション住まいで、ベランダで植物を植えているがうまくいかないため、イベントに参加して専門家に相談している方もいる。高輪地区総合支所の裏手にプランターを置いて植物を育てている。また、高松中学校の校庭横にアジサイロードをつくっている。

参加者：区内の小さな公園で、花壇の花が綺麗に手入れされているところをよく見かける。管理は誰がやっているのか。

事務局：区立公園は指定管理者制度で事業者が手入れをしている。アドプト制度で近所の区民の方が手入れをしている場所もある。

参加者：近所の方が集まって手入れに参加しているのはよいと思う。コミュニティ支援サイトの充実の一環として、そうした取組紹介や参加募集もできるとよい。自宅マンションでは、夏にゴーヤのグリーンカーテンを作っており、苗の植え付けや手入れをきっかけにマンション住民同士の交流が生まれている。

参加者：スマホやSNSの普及で情報収集の方法は変わってきたが、今後もどんどん新しい方法が生まれ、変わっていくと思う。広い範囲、広い年代が交流できるツールとしてはよいが、マナーや内容の管理や、変化への対応は重要だと思う。

参加者：港区の特徴のひとつとして、港や水辺環境があると思う。そうした区の特徴も地域コミュニティに活かしていけるとよい。

参加者：区内で撮った写真を並べてみると、目黒通りやプラチナ通り、北里通りなどは通りの特色があることがよくわかる。一方で、六本木、西麻布などは面的なまとまりで認識されていると思う。場所によってまとまりが異なることも、港区の特色のひとつであり、町会・自治会や地域コミュニティのまとまりを考える上でも重要な視点だと思う。

参加者：地域のまとまりや特色を考えると、行政が支所単位に分かれていることは、きめ細かな対応ができてよいと思う。

参加者：港区全体で考えると魅力がたくさんあるため、支所単位でもっと個性や特色を活かしていけるとよいのではないかと。例えば六本木はミッドタウン、泉岳寺はお寺など、地域の核となる施設があるため面的なまとまりが強いのではないかと。

参加者：地域の特色を活かした取組を、マルチスポットを中心として展開できるとよい。スポットの紹介や周知などもできるとよいと思う。

事務局：一定規模以上のマンションは、ほとんどが管理組合を作っている中で、テーマ1の具体的な事業「マンションと地域連携の充実」についてのご意見としては、地域の町会・自治会との連携や、管理組合の実効的な運用を働きかけるということか。

- 参加者：大規模なマンションができる場合は、地域の町会・自治会が受け皿になりきれないため、マンション単体で自治会を組織することも含めて働きかけしていただけるとよいと思う。
- 事務局：それでは、いただいたご意見を反映して提言書（案）を修正し、改めてみなさんに確認していただくこととする。

2 提言式の発表資料について

- 事務局より、資料3、4について説明した。
- 提言式の発表資料について意見を出し合い、議論が行われた。

（主な意見等）

- 事務局：発表は、リーダーが行うということでよいか。
- リーダー：私が発表する予定でよい。パワーポイントの構成について、地域コミュニティの現状や課題認識をもう少し詳しく追記できないか。区民の9割以上がマンション住まいであること、転出入の割合、外国人の比率など。港区のコミュニティの特徴がわかり、私たちがどのような視点で意見交換してきたかを伝えられるとよい。
- 事務局：以前のグループ会議で配布した資料などを確認し、追記する。
- 参加者：港区では、ふるさと納税の区外への納税が多いと聞いた。転出入が多いことは、地域特性として仕方ないことだが、港区にずっと住んでいる人の地域コミュニティを守ることや、港区に愛着を持ってもらうことは重要だと思う。
- 参加者：スライドでは課題と将来像を1ページで示しているが、分けたほうが分かりやすいのではないか。将来像が唐突に出てくるように感じるため、先ほどの区の現状や課題を入れていただくとよい。また、転出入が多いことや今後も大規模開発が予定されているため、行政機能をもっと強化しなければならないということも入れ込めるとよい。
- 参加者：暮らしの多様化、国際化が進み、地域コミュニティのあり方や、区民が行政に求めることが変化するため、区の体制もそれに合わせて変化していかなければならないと感じる。
- 参加者：区の組織体制の展望はあるのか。これまでの縦割りから、協働推進課のように横割りの組織がつくられてきたが、次の段階はどのように変わるのか興味がある。
- 事務局：支所を中心として、地域コミュニティや区民の暮らしに対応していくという方針は変わらないと思う。
- 参加者：事務手続きなどはどんどん自動化され、対人サービスなどに重点が置かれるのではないかと。支所中心という方針はよいと思うが、区民サービス機能をもっと充実していけるとよいと思う。
- 参加者：港区は企業も多いため、先進的なベンチャー企業が集まりやすいと思う。区民だけでなく小さな企業などにとっても、マルチスポットが交流や意見交換、支援の場になるとよい。
- 事務局：産業振興センター、商工会議所などで事業の立ち上げ支援などを行っている。本格的なビジネスになる前の構想や、交流の場としてはマルチスポットを活用できるとよいのではないかと。テーマ1の提言書で、「地域コーディネーターの育成」とあるが、非常勤や委託で専門職の方を雇うことになる。

参加者：区の職員構成の規定などはわからないが、専門的な知識を持ち、アドバイスできる立場の職員が必要だと考えている。

事務局：本日いただいたご意見を踏まえて、提言書、パワーポイントを修正する。みなさんにはメールで送付し確認していただき、必要に応じてリーダーと協議をして確定する予定である。

リーダー：みなさんから様々なご意見をいただき、提言をまとめることができた。それでは、完成までもう少しの間、ご協力いただきたい。

3 その他

提言書の最終案は、本日の意見を踏まえて修正し、1月末を目途にメンバーへメールで送付する。発表資料については、リーダーと適宜意見交換し、最終案を作成し、2月下旬を目途にメンバーへメールで送付する。

提言式は3月23日（月）18時30分から、港区役所9階911～913会議室で開催する。

（閉会）

リーダーが第7回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上